

■佐藤直方 漢学者。主君の仇討した赤穂浪士を、人々が賞讃するなか、国法破りの逆臣と非難。奇行逸話も多い。

さとうなおかた

御蔭参流行・1650＝ 備後国福山藩で、藩の下級武士佐藤七郎兵衛の子に生まれる。幼名は彦七、のち五郎左衛門。

徳川家光没・1651＝ 1歳：

幼少時代は虚弱であつたらしく、

明暦の大火・1657＝ 7歳：

江戸城再建・1659＝ 9歳：

諸宗寺院法度1665＝15歳：初めて就学して、「大学」を学び、

酒井忠清大老1666＝16歳：

足利学校再建1668＝18歳：ようやく「論語」「孟子」を読むなど、儒者になるには遅い出発で、
成人すると、身長が6尺余り、相当にいかつい風貌かつ過激な性格になる。

おそらく勉学への熱心さが認められ、
・ ・ ・ ・ ・ 1671＝21歳： 福山藩儒永田養庵に連れられて、上洛、山崎闇斎に面会求めるも拒否され、
東西海運確立1672＝22歳： 再び上洛して、面会を果たす。その際の問答で、峻烈な闇斎にやり込められて発奮。
三井越後屋・1673＝23歳： 猛勉強の後、再び面会、またも窮地に立たされるが、儒教への熱意を吐露して、入門許可となる。
・ ・ ・ ・ ・ 1674＝24歳： 福山に戻って講筵を開き、間もなく江戸に行き、さらに再び上京して勉学に励む。
談林派俳諧・1675＝25歳： 友人楨元真の招きで、江戸に出、
・ ・ ・ ・ ・ 1676＝26歳： 京に帰る。
・ ・ ・ ・ ・ 1677＝27歳： この年、山崎闇斎に入門してきた浅見綱斎と、

徳川綱吉將軍1680＝30歳： 続いて入門してきた*三宅尚斎とともに、"崎門の三傑"と称されるほどになるが、
垂加神道を唱え始めた師闇斎に異議を申し立て、さらに、敬義内外説の解釈についても食い違ったため、綱斎とともに破門されてしまう。

八百屋お七・1683＝33歳： 楨元真に招かれて、美濃文殊村を訪れる。しかし、山崎闇斎が死去した後も、師を敬うことを忘れず、

堀田正俊暗殺1684＝34歳： 朱子学を究める志を説いた「講学鞭策録」を刊行、

出世景清初演1685＝35歳： 「しのめ」「おたまき」。*仏教を痛烈に批判する「排釈録」など、代表作を出版。

・ ・ ・ ・ ・ 1686＝36歳：

貧乏であつたが意に介さず、弟子の会津侯の老臣が、見るに見かねてお金を用意して訪れるも、その様子に打たれて、とうとう出さずじまいで戻って来てしまい、またある時大風で屋根が破れ、十両の金を用意して修理を頼むも、無心に行って来た親戚に半分渡し、屋根屋が代金は後でよいと言うも、それでは困ると言うので半分直し、あとの半分には菰をかけて凌いだという。

・ ・ ・ ・ ・ 1689＝39歳： 「鬼神論集説」「大學全蒙釋言」「四書便講」、
別子銅山始・1691＝41歳： 父のあとを受けて、福山藩主水野勝種に招聘されて、江戸に行くが、
世間胸算用・1692＝42歳： 俸禄を与えられたが、京に帰り、
奥の細道・ 1693＝43歳： 暇を得て辞し、浪人。
芭蕉+師宣没 1694＝44歳： *厩橋(前橋)藩主酒井忠挙から賓師として江戸に招かれ、本所に住み、
生類憐令頂点1695＝45歳： この頃、結婚。

この間、屋敷が類焼して、加賀町に移り、

のち、蛸殻町の藩主邸内に移る。

赤穂浪士事件1702＝52歳： 赤穂浪士が主君の仇を討った時、世の人々はそれを義挙として賞讃したが、直方は彼等は逆臣であり、幕府を無視するものだとした。

団十郎刺殺・1704＝54歳： 父が死去。

御蔭参流行・1705＝55歳： 上洛する藩主酒井忠挙に随行し、江戸に帰る。

この間、多くの大名から賓師の待遇を受けるようになったが、禄仕せず、

徳川綱吉没・1709＝59歳：

乾山陶器店・1712＝62歳： 「道學標的」、

和漢三才図絵1713＝63歳：

徳川吉宗將軍1716＝66歳：

隅田川の桜・1717＝67歳： 「静坐集説」、

御蔭参流行・1718＝68歳： *道に合わないという理由で厩橋藩を辞し、京に遊び、

・ ・ ・ ・ ・ 1719＝69歳： 神田紺屋町に新築の家に転居直後、唐津藩主に「論語」を進講中に倒れ、医者に運ばれ、翌日、没した。人となり磊落で、ものに拘泥せず、弟子稲葉黙齋が編んだ「輻蔵録」には、多くの奇行が記されている。